

看 護

1 学習指導の改善・充実

(1) 各教科等における探究的な学び

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。この際、「考えるための技法」を効果的に活用することが重要である。

看護科においては、科目「看護臨地実習」が看護科に属する全ての科目を関連付け、統合化を図るための科目として、看護科に属する各科目で育成した資質・能力を臨地で活用するよう位置付けられており、臨地における看護の対象がもつ様々な健康課題について、対象の理解を基盤とした上で必要な援助を探究し、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、対象の多様な価値観の尊重と意思決定の支援などを踏まえて解決する力を養うよう指導することが示されている。

(2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

看護科における学習内容として、看護の対象となる人々の食事や衣生活など日常生活の援助を行うため、家庭科と内容のつながりがある分野や、人体の構成や器官系の構造と機能など、生物や物理などと内容のつながりが深い分野がある。また、対象の看護に当たっては、円滑なコミュニケーションが欠かせないことから、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習内容も重要であり、こうした科目担当者と連携を行うことで、学習の内容を深めることができる。

ここでは、看護に関する学科において、原則として全ての生徒に履修させる科目「基礎看護」における指導と評価に関する年間指導計画の具体例を示す。

教科名		看護	科目名	基礎看護（看護技術）	
科目の目標		看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けるようにする。 (2) 看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
履修学年		1学年	単位数	3単位	
月	単元	学習内容	評価規準	評価方法	関連
5	(2)看護の共通技術 ア コミュニケーション	(1)コミュニケーションの意義と目的 (2)コミュニケーションの構成要素と成立過程	【知識・技術】 コミュニケーションについて理解しているとともに、技術を身に付けている。	ワークシート 小テスト プロセスレコード 行動観察 単元テスト	現代の国語 国語 表現

		(3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 (4) 効果的コミュニケーションの実際 (5) プロセスレコードの書き方	【思考・判断・表現】 コミュニケーションについて基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 コミュニケーションについて自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切かつ安全に展開できるように主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		現代の国語、国語表現の「話すこと・聞くこと」の学習内容と関連
6	(3) 日常生活の援助 ア 日常生活の理解 イ 環境調整	(1) 援助の基礎知識 ① 療養生活の環境 ② 病室の環境のアセスメントと調整 (2) 援助の実際 ① ベッド周囲の環境整備 ② 病床の整え方 【実習】 ① リネンのたたみ方 ② ベッドメイキング	【知識・技術】 日常生活行動や環境調整について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 日常生活行動や環境調整について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常生活行動や環境調整について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 学習支援ソフト 小テスト 行動観察 自己評価表 (チェックリスト) 実技テスト 定期考査	地理総合 科学と人間生活 物理基礎
7	(3) 日常生活の援助 カ 休息と睡眠	(3) 睡眠・休息の援助	【知識・技術】 休息と睡眠について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 休息と睡眠について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 休息と睡眠について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	ワークシート 小テスト 行動観察 定期考査	

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

(1) 基礎看護の計画例

ここでは、科目「基礎看護」における、単元「環境調整」の指導と評価の計画例を表し、指導上の留意点や具体的な評価における考え方を示している。

本単元においては、日常生活が健康や成長・発達に大きな関わりをもつことを踏まえ、

人々の状態に応じて、健康の回復及び日常生活の自立を目指す援助を行うための基礎的な知識と技術を習得し、活用できるようにすることをねらいとしている。

ア 単元の目標

(ア)	環境調整の援助について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
(イ)	環境調整の援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだす。
(ウ)	環境調整の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
環境調整の援助について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	環境調整の援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだしている。	環境調整の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（16時間）

時間	【小单元】・ねらい	知	思	態
1～4 【4時間】	【援助の基礎知識】療養生活の環境を構成する要素を踏まえ、病室・病床の環境のアセスメントと調整について理解する。	○		
5～8 【4時間】	【援助の実際①】ベッド周囲と病床の環境整備について理解し、技術を身に付ける。		○	
9、10 【2時間】	【援助の実際②】リネンのたたみ方の実際について理解し、技術を身に付ける。			○
11～14 【4時間】	【援助の実際③】ベッドメイキングの実際について理解し、技術を身に付ける。	○		○
15～16 【2時間】	実技テスト	○		

エ 学習指導案（11～14時間目／16時間中）

科目名	基礎看護	
单元名	(3) 日常生活の援助 イ 環境調整 援助の実際③	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 対象の状態に応じたベッドメイキングの基礎的な知識と技術を習得する。 対象の状態に応じたベッドメイキングについて自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組む。 	
学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意事項
導入	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援ソフトの準備（ベッドメイキングの手順や留意点等） 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に各自でベッドメイキングのビデオを視聴し、学習支援ソフトに手順や留意点を記録するよう指導する。
展開1 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ①ベッドメイキングの手順及び留意点を学習支援ソフトで確認する。 ②グループに分かれ、各自が学習支援ソフトで記録したベッドメイキングの手順や留意点について、意見交換を行う。 ③意見交換後、各自が新たに気付いた点や指摘された点について、学習支援ソフトに記録する。 <p style="text-align: center;">【例1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前に付箋を作成し、手順や留意点が記録されているか確認する。 意見交換により、自分で不足している部分に気付き、必要な資料を認識できるようにする。 教科書や必要な資料を用意し、記録できるよう支援する。
展開2	<ul style="list-style-type: none"> ①3人一組で、学習支援ソフトに記録した手順や留意点に基づき、ベッドメイキングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順や留意点を忘れた際には、学習支援ソフトを自分で確認しながら実施するよう指導する。

(2 時 間)	②実施者と観察者（チェッカー）は、それぞれ実施内容について自己評価表（チェックリスト）に記入する。 【例2】	<ul style="list-style-type: none"> ・上手にできている点とできていない点を記入するよう指導する。 ・実施後、観察者からの評価を参考に、自分自身の自己評価表で具体的に上手にできた点とできなかった点を振り返るよう指導する。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・できなかった点について、解決策を考え、学習支援ソフトに記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解決策に困っている場合は、声かけをするなどの支援をする。

オ 評価問題等

(ア) 「知識・技術」の評価〔例1〕

ここでは、生徒が学習支援ソフトを利用して記録した内容から「知識・技術」を評価する例を示す。事前に視聴したVTRの中で説明されている内容が記録できている場合は（B）、説明内容以外に、教科書に記載されている留意点や自分で気が付いたことを含めて記録されている場合は（A）、説明内容が十分に記録できていない場合は（C）として評価している。

＜学習支援ソフトの例（生徒が入力する前に、あらかじめ記録しておく内容）＞

1年〇組 〇〇番 〇〇 〇〇

下シーツを敷く

例) ①第1 施行者は下に向かってシーツを広げる

左半分に、手順を入力します。

VTRを視聴してベッド メイキングの手順書を作成する。

例)
① しっかり引っ張る

右半分に、手順に伴う留意点を付箋で入力します（手順と留意点の番号を一致させること）。

図表を書いても構いません

＜評価が（A）となる例＞

1年〇組 〇〇番 〇〇 〇〇

下シーツを敷く

①第1 施行者は下に向かって下シーツを広げる

②シーツの一番上を広げる

③第1 施行者は畳であるシーツの一番下に手を入れる

④第1 施行者は枕側を押さえ、第2 施行者は斜めに引っ張る

⑤枕側にシーツを伸ばして、マットレスの下に入れ込む

⑥枕側の三角を作る

⑦斜めに引っ張ってしわを伸ばす

⑧2人で息を合わせて足元のシーツを中に入れる

⑨足元の三角を作る（第1 施行者から第2 施行者の順）

① しっかり引っ張る

① 軽くマットレスに挟み込んでおく

③ 中心がズレないようにしっかり押さえる

④ 常に中心線を意識する

⑥ シーツの耳の部分を持ち上げて、マットレスと直角の三角をつくる

⑥ 側面に垂れているシーツを、マットレスの下に敷き込む

⑥ マットレスに平行に手を添えて、持ち上げたシーツを下ろす

⑥ シーツを敷き込む時には、手背を上に入れて入れる

⑦ 対角線に引っ張ることで、表面のシワをなくす

⑦ シーツの端は親指と残り4本の指でしっかり保持する

⑦ 両足は前後に開き、基底面を広く取って重心を落とす

⑧ 第2 施行者の実施時にしわがあったら教える

動画で説明された内容に加え、教科書に記載されている留意点や自分で気が付いたことを含めて、記載しているので（A）とした。

※点線で囲まれた付箋は教科書に記載されている留意点や自分で気が付いた内容、実線で囲まれた付箋は動画で説明された内容など、分けて記載している。

学習支援ソフト上で、手書きで図や表を書き、理解しやすいよう工夫している場合も（A）と評価する。

<評価が（B）となる例>

1年〇組 〇〇番 〇〇 〇〇
下シーツを敷く

- ①第1 施行者は下に向かって下シーツを広げる
- ②シーツの一番上を広げる
- ③第1 施行者は畳であるシーツの一番下に手を入れる
- ④第1 施行者は枕側を押さえ、第2 施行者は斜めに引っ張る
- ⑤枕側にシーツを伸ばして、マットレスの下に入れ込む
- ⑥枕側の三角を作る
- ⑦斜めに引っ張ってしわを伸ばす
- ⑧2人で息を合わせて足元のシーツを中に入れる
- ⑨足元の三角を作る（第1 施行者から第2 施行者の順）

① しっかり引っ張る

① 軽くマットレスに挟み込んでおく

③ 中心がズレないようにしっかり押さえる

④ 常に中心線を意識する

⑧ 第2 施行者になったら教える
行時あえ

動画で説明された内容は十分に記録できているが、教科書に記載されている留意点や自身の気付きは記録されていないので（B）とした。

<評価が（C）となる例>

1年〇組 〇〇番 〇〇 〇〇
下シーツを敷く

- ①第1 施行者は下に向かって下シーツを広げる
- ②シーツを広げる
- ③枕側にシーツを伸ばし、マットレスの下に入れ込む
- ④枕側の三角を作る

② シーツの表面のシワは伸ばす

③ 中心がズレないようにしっかり押さえる

⑧ 第2 施行者になったら教える
行時あえ

動画で説明された内容の一部しか記録されていないので（C）とした。

<（C）と評価された生徒への手立て>
動画を再度視聴させ、動画内で文字起こしされているものを全て学習支援ソフトに記録するよう指導する。
その上で、手技の順序を理解し、実際に技術が身に付くよう取組を支援する。

(イ) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価〔例2〕

ここでは、自己評価表（チェックリスト）を活用した「主体的に学習に取り組む態度」の評価例を示す。

ベッドメイキングを実施する前に、2名の観察者（チェッカー）に自己評価表を渡し、実施後、チェック項目ができたかなど、気付いた点を記入してもらう。実施者は、観察者の記入した内容も踏まえ、自己評価を実施する。

<自己評価表（チェックリスト）の例>

チェック項目		チェッカー1	チェッカー2
1	必要物品を使用順に床頭台の上に置いてあるか（輪の位置）		
2	作業領域を確保しているか（椅子・床頭台の位置）		
3	ベッドのストッパーを止めたか		
4	キャスターを内側にしたか		
5	マットスパットを足元側から広げ、マットレスの足元に合わせたか		
6	下シーツをマットレスの中央に合わせて広げているか		
18	全体的に無駄な動きをしていないか		
気が付いた点について記入しましょう		観察者（チェッカー）氏名	
チェッカー1	チェッカー2	実施者	

<評価が（A）となる例>

基底面を意識して自分の足を前後に開き、足の向きをシーツを引く方向に向けると力がかけやすいことがわかった。実際にシーツを引く際には腰をしっかりと落とすようにする。

取り入れたい工夫点を記入できていることや、次の実践に生かしたいことを明らかにしながら、まとめているため（A）とした。

<評価が（B）となる例>

自分の作業する場所をしっかりと空けておかないと作業しにくいことがわかった。

気が付いた点や対処方法について記入されているが、次の実習時に改善したい点が具体的でないため（B）とした。

<評価が（C）となる例>

横シーツの重なりが十分でなかった。

気が付いた点は記入されているが、対処方法が記入がされておらず、次の実習の際にどのように改善するかが明確でないため（C）とした。

次の実習までに、個別指導を行い、技術が向上するよう支援する。